

年 頭 所 感

平成29年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げますとともに、旧年中に賜りましたご厚誼に心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、年初からの日銀によるマイナス金利導入、外資による国内大手家電の買収、熊本地震をはじめとする自然災害の頻発等、混沌とする時代を象徴する出来事が相次ぎました。海外に目を向けますと、世界的なテロの頻発や経済的格差の拡大等による先行き不安が蔓延するなかで、グローバリズムや緊縮財政からの転換等、変革を求める気運が高まり、イギリスのEU離脱やアメリカ大統領選挙に大きな影響を与えることとなりましたが、年末にかけて、アメリカの財政出動に対する期待感等が、日米の株価を押し上げ、ドル高円安基調を顕著に示す等、本年に向けて明るい兆しも見られることとなりました。

このような変革の時代にあつて、本所ではコメ先物市場の活性化に取り組み、取引量も着実に拡大したところですが、特に10月には、様々なニーズに応えるため、業務用米市場としての「東京コメ」、コシヒカリ一般市場としての「大阪コメ」に加え、新たに単一産地品種銘柄市場として「新潟コシ」をコメ先物市場のラインナップに加えました。「新潟コシ」は、コメ先物市場で初めてとなる1年限月制を採用し、また、産地倉庫での受渡しを可能にする等の工夫を施したことにより、生産者を中心に大きな関心が寄せられる等、順調に浸透しつつあるところです。

本年は、コメの生産調整に国が関与する最終年を迎え、コメの直接支払交付金も本年産限りで廃止されるなかで、買取り集荷の強化をはじめとする農協組織の抜本的な改革が求められており、飼料用米に対する直接支払交付金の行方等も含め、平成30年へ向けて、我が国の農業経営を取り巻く環境にも大きな変化が予想されています。

こうした背景から、農家をはじめとする農産物を扱う関係者にとっては、コメ価格の見通しが従来にも増して困難となる状況に追い込まれることは必至であり、コメ価格の変動によるリスクがこれまで以上に高まるとすれば、より一層、コメ先物市場が注目を集めるものと認識しているところです。本所と致しましては、本年8月にコメの試験上場期間満了を迎えるにあたり、コメ先物市場の機能強化及び安定的な運営によって、産業インフラとして国益に寄与して

いくとの強い気概のもと、何としても本上場を実現するべく、役職員一同、全力を傾注して参る所存です。

具体的には、コメ先物市場の継続的な利便性向上を目指すなかで、生産者や集荷業者をはじめとする当業者に向けての啓蒙活動をより一層活発化させるとともに、市場アクセス向上の観点から受託会員の外務員の皆様に向けて昨年より開始した「堂島コメスペシャリスト育成講座」の継続開催及び各種先物セミナーの実施等を通じて、関係団体と連携を図りながらコメ先物取引の普及に努めて参ります。

また、本上場を見据え、価格発信機能の更なる充実をはかるため、より利便性の高い取引システム導入の準備やコメ現物市場開設に関する調査・研究を加速させ、さらに、盤石な財務基盤を構築するなかで、先物市場の将来を見据えた中期的な取り組みと致しまして、大阪・デリバティブという共通の認識を持つ関係各所との協力や大学生へ向けた先物取引に関する寄付講義につきましても、引き続き積極的に展開して参ります。

最後になりますが、本年こそ、商品先物市場が飛躍する年となることを祈念し、また、皆様方の益々のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げますとともに、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成29年 元旦

大阪堂島商品取引所
理事長 岡本 安明